



平成26年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年10月29日

上場会社名 石井食品株式会社 上場取引所 東
 コード番号 2894 URL http://www.ishiifood.co.jp
 代表者 (役職名)代表取締役社長執行役員 (氏名)長島 雅
 問合せ先責任者 (役職名)執行役員財務戦略部マネージャー (氏名)松本 英士 (TEL)047(440)8748
 四半期報告書提出予定日 平成25年11月12日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年3月期第2四半期の連結業績(平成25年4月1日~平成25年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第2四半期	4,672	△2.0	△275	—	△272	—	△286	—
25年3月期第2四半期	4,766	△2.8	△223	—	△215	—	△235	—

(注) 包括利益 26年3月期第2四半期 △274百万円(—%) 25年3月期第2四半期 △268百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第2四半期	△15.76	—
25年3月期第2四半期	△12.80	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
26年3月期第2四半期	8,307	4,629	55.7
25年3月期	9,196	5,077	55.2

(参考) 自己資本 26年3月期第2四半期 4,629百万円 25年3月期 5,077百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	—	0.00	—	3.00	3.00
26年3月期	—	0.00	—	—	—
26年3月期(予想)	—	—	—	3.00	3.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成26年3月期の連結業績予想(平成25年4月1日~平成26年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	10,600	4.0	150	—	150	—	75	—	4.09

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
 新規 一社(社名)、除外 一社(社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

26年3月期2Q	18,392,000株	25年3月期	18,392,000株
26年3月期2Q	646,203株	25年3月期	35,271株
26年3月期2Q	18,181,962株	25年3月期2Q	18,357,896株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

- この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了しておりません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P.5「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	5
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	5
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	6
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	6
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	6
3. 四半期連結財務諸表	7
(1) 四半期連結貸借対照表	7
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	9
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	9
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	10
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	11
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	13
(継続企業の前提に関する注記)	13
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	13

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間の食品業界を取り巻く環境は、円安による原材料費・燃料費の高騰により、製造原価の上昇、経費の負担増の影響がありました。消費も一部、高額商品が上向く等の回復基調がみられましたが、依然として低価格志向が強く個人消費は伸び悩む状況となりました。

一方、専業主婦の減少、高齢化、一人・二人世帯の増加により食事の悩みも大きく変化してきましたが、当第2四半期連結累計期間においてはこのような変化への対応のズレと遅れがあり、ファミリータイプの商品の品揃えと提案が中心となってしまいました。また、販売チャネルにおいてもスーパーマーケットへの活動が主体となり、高齢者向きの販売チャネルへの対応が遅れてしまいました。その結果、当第2四半期連結累計期間においては損失を計上する結果となりました。

食事に関しましては、働く主婦からの「毎日の食事の献立を考えるのが大変」、高齢者の一人・二人生活者からの「食事の支度が簡単にできて栄養バランスの良い献立を考えるのが大変」、食物アレルギーを持つ子供の親からの「安心して食べさせられる献立ができない」、災害で避難した方からの「火と水が無くても美味しく食べられる非常食が欲しい」等の食事への要望を捉え、提案内容と新たなチャネルへの取り組みを徹底いたしました。

取り組み内容といたしましては、「毎日の食事」、「お弁当の食事」、「食物アレルギー配慮の食事」、「非常時の食事」、「ハレの日の食事」の5つのカテゴリで、「1人」、「2人」、「ファミリー」、「みんなが集まった時」の4つの食シーンに合わせた献立提案のサービス及び商品開発とチャネル開発を行いました。

「毎日の食事」では、働く主婦のために一手間で手作り感のあるメニューとして、「大粒肉だんご」と「ごぼうサラダ」の15分で食事の支度ができる食卓提案、また、主食においてはご飯を美味しく食べていただくことを目的とした2合用の炊き込みご飯の素「栗ごはん」・「さつま芋と栗ごはん」、まぜごはんの素「有明鶏のかしわめし」等による提案を行っております。

「お弁当の食事」では、子供のためのお弁当だけではなく栄養バランスのよいお父さん向け弁当の提案も積極的に行っております。

「食物アレルギー配慮の食事」では、食物アレルギーを持つ子供の親が、食事に関する情報交換や子育ての悩み相談をするために集まる各地のサークルにお伺いし、食物アレルギー配慮食「いっしょがいいね」シリーズのご案内をするとともに、ご意見・ご要望をお伺いし、新たな商品開発やチャネル開発を行い、生協チャネルや乳幼児・子供用専門店等に販売を開始しました。

「非常時の食事」においては地震や津波災害対策だけではなく、水害等の災害時の食事としても評価を得ており、学校・公官庁・企業などへの拡販を行っております。

このような活動に集中することにより、8月以降は成果が見え始めてまいりました。

食品安全においては「食の安心安全」への関心はさらに強くなってきておりますので、現在当社で取得している食の安全規格であるISO22000を更にレベルアップするために、食品工場の前提条件プログラムが更に具体的に追加されたFSSC22000の認証に向け、施設設備と衛生管理等の改善に取り組み、8月に審査が終了し、10月に認証を取得しております。

また、FSSC22000と併せて、現在認証取得しているISO9001（顧客満足）、ISO14000（環境）の3つのマネジメントシステムを同時に運用していくことにより、更に企業活動を充実させてまいります。

生産部門におきましては、品質の向上とロス・ムダの削減による付加価値生産性向上を目的として、一つ一つの工程における時間管理と温度管理の徹底を行い改善に取り組んでまいりました。

このような活動を行ってまいりましたが、当社グループの当第2四半期連結累計期間の売上高は46億72百万円（前年同期比94百万円減）となりました。また、販売費及び一般管理費はコスト削減に努めましたが、水道光熱費・FSSC22000取得費用等の増加があり4百万円の削減にとどまった結果、営業損失は2億75百万円（前年同期は2億23百万円の営業損失）となりました。経常損失は2億72百万円（前年同期は2億15百万円の経常損失）となり、また、固定資産処分損や法人税等を計上した結果、四半期純損失は2億86百万円（前年同期は2億35百万円の純損失）となりました。

製品別チャンネル別業績の概況は、次のとおりであります。

（単位：千円）

製品別売上高	前第2四半期連結累計期間 (24.4.1～24.9.30)		当第2四半期連結累計期間 (25.4.1～25.9.30)		比較増減	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	趨勢比
食肉加工品(ハンバーグ・ミートボール他)	4,298,472	90.2	4,218,058	90.3	△80,414	98.1
炊き込みご飯の素・まぜご飯の素	192,883	4.0	197,644	4.2	4,760	102.5
惣菜(サラダ・煮物他)	179,148	3.8	172,429	3.7	△6,719	96.3
非常食	12,076	0.3	20,515	0.4	8,438	169.9
配慮食	13,741	0.3	16,441	0.4	2,699	119.6
その他	70,550	1.4	47,568	1.0	△22,982	67.4
合計	4,766,874	100.0	4,672,656	100.0	△94,217	98.0

（単位：千円）

(チャンネル別内訳)	前第2四半期連結累計期間 (24.4.1～24.9.30)		当第2四半期連結累計期間 (25.4.1～25.9.30)		比較増減	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	趨勢比
スーパーマーケット・小売店他		%		%		%
食肉加工品(ハンバーグ・ミートボール他)	4,116,587	92.5	4,032,326	93.3	△84,260	98.0
炊き込みご飯の素・まぜご飯の素	165,598	3.7	169,103	3.9	3,505	102.1
惣菜(サラダ・煮物他)	93,441	2.1	62,553	1.5	△30,887	66.9
非常食	8,947	0.2	11,048	0.3	2,101	123.5
配慮食	4,727	0.1	5,655	0.1	927	119.6
その他	60,914	1.4	39,567	0.9	△21,346	65.0
合計	4,450,216	100.0	4,320,255	100.0	△129,960	97.1

生協・宅配他	金額	構成比	金額	構成比	金額	趨勢比
		%		%		%
食肉加工品(ハンバーグ・ミートボール他)	181,288	59.4	185,105	55.0	3,816	102.1
炊き込みご飯の素・まぜご飯の素	26,410	8.6	27,878	8.3	1,467	105.6
惣菜(サラダ・煮物他)	85,466	28.0	109,785	32.7	24,319	128.5
非常食	402	0.1	1,105	0.3	702	274.7
配慮食	7,107	2.3	9,286	2.8	2,178	130.7
その他	4,987	1.6	3,005	0.9	△1,982	60.3
合計	305,663	100.0	336,166	100.0	30,503	110.0

ダイレクト販売	金額	構成比	金額	構成比	金額	趨勢比
		%		%		%
食肉加工品(ハンバーグ・ミートボール他)	596	5.4	626	3.8	30	105.1
炊き込みご飯の素・まぜご飯の素	874	8.0	662	4.1	△212	75.7
惣菜(サラダ・煮物他)	241	2.2	89	0.6	△151	37.2
非常食	2,726	24.8	8,360	51.5	5,634	306.6
配慮食	1,906	17.3	1,499	9.2	△407	78.6
その他	4,649	42.3	4,995	30.8	346	107.5
合計	10,994	100.0	16,233	100.0	5,239	147.7

①食肉加工品（ハンバーグ・ミートボール他）

主力のミートボールは、幼児、小学生の人口減と価格競争が影響し売上高は前年同期比で減少しましたが、8月以降は献立提案の効果があり、売上高は増加基調となっております。

また、1.5倍チキンハンバーグは、高齢者の食事提案を積極的に行った結果、売上高は前年同期比105.6%となりました。

②炊き込みご飯の素・まぜご飯の素

2人世帯の増加に合わせ、2合用の「炊きこみご飯の素 栗ごはん」、「炊きこみご飯の素 松茸ごはん」、3合用の「炊きこみご飯の素 さつま芋と栗ごはん」の3品を発売し、スーパーマーケットにおいて献立提案を行った結果、ご好評をいただきました。また、まぜご飯の素シリーズでは「有明鶏のかしわめし」が関西、中部を中心に販売が増加いたしました。この結果、売上高は前年同期比102.5%となりました。

③惣菜（サラダ・煮物他）

サラダシリーズは、生協の宅配チャネルを中心に、一手間で手作り感のある献立が働く主婦や高齢者にご好評をいただきましたが、スーパーマーケットでは低価格商品に押され、売上高は前年同期比96.3%となりました。

④非常食

非常食は、津波・地震だけではなく、水害等の災害が多く発生する環境下で火と水が無くても美味しく食べられる点と賞味期限を3年に延ばしたことで、企業・官公庁・学校などでご評価をいただき2万6千セットを販売いたしました。この結果、売上高は前年同期比169.9%となりました。

⑤配慮食

食物アレルギー配慮食「いっしょがいいね」シリーズは、生協宅配チャネル、乳幼児・子供用専門店で販売を開始し、「プチミート」等おかずになる商品がご好評を得ました。この結果、売上高は前年同期比119.6%となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

①資産、負債及び純資産の状況

(資産)

当第2四半期連結会計期間末における総資産は83億7百万円（前連結会計年度末比8億88百万円減）となりました。主な要因は、現金及び預金の減少4億35百万円、有形固定資産の減少1億52百万円、長期預金の減少3億円であります。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末における負債は36億77百万円（前連結会計年度末比4億41百万円減）となりました。主な要因は、買掛金の減少1億74百万円、未払費用の減少2億4百万円であります。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産は46億29百万円（前連結会計年度末比4億47百万円減）となりました。主な要因は、四半期純損失の計上2億86百万円、自己株式の取得1億17百万円、配当金の支払55百万円であります。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物は23億円となり、前連結会計年度末に比べ4億35百万円の減少となりました。各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりであります。

営業活動により減少した資金は4億70百万円（前年同期は2億53百万円の減少）となりました。主な要因は、仕入債務及びその他流動負債の減少によるものであります。

投資活動により増加した資金は2億46百万円（前年同期は46百万円の減少）となりました。主な要因は、定期預金の払戻による収入であります。

財務活動により減少した資金は2億11百万円（前年同期は93百万円の減少）となりました。主な要因は、自己株式の取得による支出、配当金の支払及び長期借入金の返済による支出であります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成26年3月期の連結業績予想につきましては、平成25年5月10日に公表いたしました通期の業績予想に変更はございません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用の計算

当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

3. 【四半期連結財務諸表】
 (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,735,602	2,300,012
売掛金	1,299,402	1,318,233
商品及び製品	60,391	51,176
仕掛品	2,858	2,584
原材料及び貯蔵品	188,863	177,899
その他	91,889	98,370
貸倒引当金	△1,418	△1,436
流動資産合計	4,377,588	3,946,840
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	1,843,621	1,757,263
機械装置及び運搬具(純額)	760,208	704,679
工具、器具及び備品(純額)	53,964	47,579
土地	906,296	906,296
リース資産(純額)	20,034	15,840
建設仮勘定	5,874	5,355
有形固定資産合計	3,589,999	3,437,014
無形固定資産	117,066	113,148
投資その他の資産		
投資その他の資産	1,159,580	858,270
貸倒引当金	△47,900	△47,900
投資その他の資産合計	1,111,680	810,370
固定資産合計	4,818,746	4,360,533
資産合計	9,196,335	8,307,373
負債の部		
流動負債		
買掛金	457,967	283,957
短期借入金	1,380,000	1,380,000
1年内返済予定の長期借入金	61,210	27,430
未払費用	728,086	523,892
未払法人税等	19,007	16,228
賞与引当金	73,097	73,994
その他	141,084	108,037
流動負債合計	2,860,452	2,413,541

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
固定負債		
社債	500,000	500,000
長期借入金	250,000	250,000
退職給付引当金	333,072	339,857
資産除去債務	21,948	21,957
長期未払金	139,894	139,894
その他	13,575	12,192
固定負債合計	1,258,491	1,263,903
負債合計	4,118,944	3,677,444
純資産の部		
株主資本		
資本金	919,600	919,600
資本剰余金	672,801	672,801
利益剰余金	3,458,565	3,116,941
自己株式	△8,602	△126,159
株主資本合計	5,042,364	4,583,183
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	32,898	44,387
繰延ヘッジ損益	2,128	2,357
その他の包括利益累計額合計	35,026	46,745
純資産合計	5,077,390	4,629,928
負債純資産合計	9,196,335	8,307,373

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】
 【四半期連結損益計算書】
 【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
売上高	4,766,874	4,672,656
売上原価	3,131,180	3,093,619
売上総利益	1,635,693	1,579,036
販売費及び一般管理費		
給料及び手当	305,877	304,235
支払手数料	146,535	169,939
運搬費	557,876	549,089
販売促進費	176,085	192,367
その他	673,311	639,087
販売費及び一般管理費合計	1,859,686	1,854,719
営業損失(△)	△223,993	△275,683
営業外収益		
受取利息	2,930	2,013
受取配当金	5,818	5,711
受取保険料	8,929	—
廃油売却益	6,668	5,561
その他	7,516	6,944
営業外収益合計	31,863	20,231
営業外費用		
支払利息	13,569	12,225
たな卸資産廃棄損	9,304	4,647
その他	49	201
営業外費用合計	22,923	17,074
経常損失(△)	△215,052	△272,526
特別利益		
投資有価証券売却益	—	3,845
特別利益合計	—	3,845
特別損失		
固定資産処分損	9,846	5,875
投資有価証券売却損	—	100
特別損失合計	9,846	5,975
税金等調整前四半期純損失(△)	△224,899	△274,657
法人税等	10,145	11,895
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△235,045	△286,552
四半期純損失(△)	△235,045	△286,552

【四半期連結包括利益計算書】
 【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△235,045	△286,552
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△31,784	11,489
繰延ヘッジ損益	△1,607	229
その他の包括利益合計	△33,391	11,718
四半期包括利益	△268,436	△274,834
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△268,436	△274,834
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失(△)	△224,899	△274,657
減価償却費	229,512	216,947
賞与引当金の増減額(△は減少)	△955	897
退職給付引当金の増減額(△は減少)	3,248	6,785
受取利息及び受取配当金	△8,749	△7,725
支払利息	13,569	12,225
投資有価証券売却損益(△は益)	—	△3,745
固定資産処分損益(△は益)	9,846	5,875
売上債権の増減額(△は増加)	△152,869	△18,831
たな卸資産の増減額(△は増加)	△182	20,452
仕入債務の増減額(△は減少)	28,558	△174,009
未払法人税等(外形標準課税)の増減額(△は減少)	273	△872
未払消費税等の増減額(△は減少)	2,249	18,696
その他	△3,440	△242,788
小計	△103,837	△440,748
利息及び配当金の受取額	8,233	8,297
利息の支払額	△13,581	△12,702
工場再構築費用の支出額	△135,801	△13,080
法人税等の還付額	1,933	2,569
法人税等の支払額	△10,516	△14,848
営業活動によるキャッシュ・フロー	△253,569	△470,512
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△1,260,000	—
定期預金の払戻による収入	1,760,000	300,000
投資有価証券の取得による支出	△1,236	△1,245
投資有価証券の売却による収入	—	19,936
有形固定資産の取得による支出	△545,384	△63,423
無形固定資産の取得による支出	—	△8,520
その他	32	△558
投資活動によるキャッシュ・フロー	△46,587	246,189

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	360,000	380,000
短期借入金の返済による支出	△360,000	△380,000
長期借入金の返済による支出	△33,780	△33,780
リース債務の返済による支出	△4,781	△4,859
自己株式の取得による支出	△48	△117,557
配当金の支払額	△55,074	△55,070
財務活動によるキャッシュ・フロー	△93,683	△211,267
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△393,841	△435,589
現金及び現金同等物の期首残高	1,839,280	2,735,602
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,445,438	2,300,012

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。